地域づくり表彰

春日活性化委員会(佐賀県嬉野市)

廃校、耕作放棄地、高齢者、これまで隠れていた宝物に 光を当て、新たな魅力として育んでいくプロジェクト 春日活性化委員会

代表

中林 正太



1. 嬉野市の概要

嬉野市は佐賀県の西部に位置し、 人口は約2万6千人ほどです。1300 年以上前の太古の時代から人々を癒 してきた嬉野温泉は「日本三大美肌 の湯」として名高く、「うれしの茶」 の産地として600年の歴史を刻んで きた「日本茶のふるさと」でもあり ます。また、市内の中心を貫く塩田 川の水運と有明海の干満差を生かし て陶磁器の原料を積み上げる川港と してかつて栄えた塩田津を中心に、 大規模な製陶工場跡が当時のまま残 る「志田焼の里博物館」やレトロモ ダンなデザインが特長の肥前吉田焼 など、肥前窯業圏(日本遺産登録) のゆりかごとして歴史的な威風をた たえているまちです。





2. 活動拠点の春日地区

嬉野市の吉田地区内山間地に位置する「春日地区」。春日地区にある遺跡から縄文時代の石器などが発見されており、太古から人が居住していたと言われています。明治 11 年当時の「嬉野区役所」の調書には、春日地区の人口は 479 人(世帯数 108戸)と記されており、小さい地区ながらも多くの人でにぎわっていたことがうかがえます。



3. 活動開始の背景・経緯

明治8年に開校した旧吉田小学校 春日分校は、春日地区の中核となり、 区民運動会や敬老会を主催するほど でした。しかし、少子化で平成13 年の統廃合により閉校となりました。 その後数年は地域の方々により公民 館などの集会所の代わりとして月に 数回使用されていましたが、高齢化 により維持管理が出来なくなり、市 へと返還され、その後何の計画もな いまま荒れ初めていました。140年 以上ある歴史と、豊かな自然に囲ま れたロケーション、また人口約100 人の春日地区を何とか守って行かな ければならないという思いから、春 日実行委員会を設立しました。

4. これまでの取り組み

旧吉田小学校春日分校を2016年3 月に「分校 Cafe haruhi」として活 用を開始しました。市街地からは車 で約15分山を登らなければならな い立地から、最初の2年間は売り上 げを軌道に乗せるため、飲食店営業 に注力し、少しずつお客様が増えて きたことから、2018年から念願だっ た地域との交流をスタートしました。 飲食店営業の傍ら、月に一回「春日 地区交流会」と題し地域の高齢者へ とお声掛けをし、食事会を行いまし た。交流会の回を重ねるごとに、地 域の方々の春日地区に対する想いと 私たちが春日地区でやっていきたい と感じていたことが重なっていくこ とを感じ、分校 Cafe haruhi を拠点 に一緒に春日地区全体を盛り上げて いく活動にしていくこととなり、 2020 年ありのまま春日というプロ ジェクトがスタートしました。この プロジェクトでは、耕作放棄された 茶畑になる実を集め、油を搾る「茶 の実プロジェクト」を実施し、2021 年には、地域で油を生産するために

「搾油工房 山ん中」を開業しました。 また、耕作放棄された田畑を利活用 する目的から農業もスタートし、現 在8反の田畑を地域の方々のご協力 により耕作しています。

「分校 Cafe haruhi」

春日地区といえば、嬉野市内に住む方ですら一度も訪れたことがないような場所でした。しかし、分校をカフェとして活用し、春日地区住民の方々と協力してイベントを行うことで、年間5000人以上の方々が訪れる場所になりました。



分校 Cafe haruhi

「むかし美人の会」

haruhi は地域の方々の拠り所に もなり、交流会を重ね、思い思いの 意見を伝えあうことで、最初は「自 分たちなんてもう、高齢で何もやれ ない」と話されていた住民が、今で は自らを「むかし美人の会」と命名 し、イベントでの出店を何よりも楽 しみにしていると話されるまでにな りました。



郷土料理をふるまうむかし美人の会

「茶の実プロジェクト始動」

お茶の樹に花が咲き、実がなることはあまり知られておらず、さらにその実から油が摂れるとは考えもしないことでした。しかし、春日地区に住むご高齢の方々は、戦時中実際にお茶の実油を搾り、学校に寄付していた経験を持たれていました。地域の方々にとっての「当たり前」が、外部の人から見るととても魅力的に見えたり、斬新なアイデアに見えたりするのだということを感じ、それらを形にした時「当たり前」の違いから"価値"が生まれていると感じました。



茶の実油を利用した商品

5. 継続的に実施していくために

地域活性化とともに新たに人を呼び込むための手段として、雇用の場を設ける必要があると考え、haruhiの従業員として4名雇用しました。さらに、「茶の実プロジェクト」や農業のため、市外・県外から4名雇用しました。



カフェの従業員

また、継続的な収益を生むための 仕組みを構築しようと、「茶の実プロジェクト」により商品開発・販売を 行いました。開発に際し、地元住民 のアイデアを取り入れるべく、交流 会等でワークショップを行い、試供 品を使用してもらうことで、適格な アドバイスをいただきました。とも に実施することで地元住民の積極性 が見られるようになり、春日地区へ の想いを少しずつ形にできていることを実感しました。



交流会でのワークショップ

6. 創意工夫

如何に地域の方々と一緒にやれるかということを第一に考え、何をするにも地域の方々にお声掛けし、協力を仰いだり、アイデアを頂いたりすることはとても意識をしています。その結果、自らできることを考え、「むかし美人の会」を設立し、郷土料理のふるまいや定期交流会を開催されています。また、農業では地元住民の持ち物やノウハウなどを提供してもらうことで協力体制のもと農作業を実施しています。



地元住民との茶の実採取の様子

7. 成果

嬉野市内に住む人ですら一度も訪れたことがないような場所だった春日が、カフェの利用で訪れるお客さんはもちろん、haruhiでウェディングパーティーや同窓会など、地元住民をはじめとする嬉野市民が集う場として選ばれるようになりました。



ウェディングパーティー

また、マルシェ(harurhi 日和)の開催で20店舗以上が集まり、市内市外問わず人が集まる場所になりました。



マルシェの出店者

加えて、「自分たちなんてもう、高齢で何もやれない」と話していた地元住民らが、今では自らを「むかし美人の会」と名付け、イベントの際には積極的に出店されるようになり、活気に満ちています。委員会立ち上げのときからの、如何に地域の方々と一緒にやれるかという想いが通じ、形になった何よりの証拠だと思います。さまざまな活動を行うことでこれらの自主性だけでなく、茶の実の採取やプロジェクトの活動を通して耕作放棄地の減少にもつながりました。

8. 今後の課題と展望

2020年末から耕作放棄された田畑 をお借りして、農業を本格的にス タートしました。まずは地元住民 より要望があった土地約1.5~ク タールを活用し、1~2年かけて春 日地区の気候に合う野菜を選定し、 ブランディングを行っていく予定 です。最終的には地域住民の方々 にもその野菜を栽培していただき、 春日活性化委員会として買取りを 行うことで、地域全体の収入アッ プにもつながればと考えています。 また、空き家の活用をしてほしい という要望も出てきており、民泊 を行う等、これまで春日地区にな かった「滞在」という体験を出来 る場所にしていきたいと考えてい ます。

課題として、農業や空き家活用といったように地域の要望を知れば知るほど新たな事業が生まれてきてはいるのですが、それらをやるための初期段階の人と資金をどう繋げていくかが一番の課題と感じており、そのためにも一つ一つの事業を丁寧にやっていかなければならないと痛感しています。